

学 報

(昭和49年4月～昭和50年8月)

行 事

- 昭和49年
 - 4月15日 昭和49年度入学式
 - 4月16日 新入生歓迎会
 - 5月15日 学外授業。二回生が杉藤助教授、稲田助手のもとに葵祭を見学
 - 6月10日～22日 四回生教育実習
 - 6月27日 第十六回国文学会評議員会
 - 9月10日 『樟蔭国文学 第12号』発行
 - 10月1日 『会報18』発行
 - 10月22日 学外授業。二回生が杉藤助教授、稲田助手のもとに時、代祭を見学
 - 11月12日 第十三回 国文学会総会
- 研究発表「語りの効果」今田陽子、「ことばのコミュニケーション」日下

- 千恵子、「ダ行音とザ行音の混同」
- 中野節子、「二拍語の研究」牧浦和子、「複合語のアクセントについて」
- 「阪田純代
- 講演「近松浄瑠璃の演劇性」徳島文理
- 大学短期大学教授
- 角田 一郎氏
- 昭和50年
 - 2月22日 卒業論文発表会及卒業論文に関するガイダンス
 - 3月20日 昭和49年度卒業式。小林優子他17名卒業、ロイヤルホテルにて卒業パーティ
 - 4月12日 昭和50年度入学式
 - 4月16日 新入生歓迎会
 - 5月15日 学外授業。二回生が原田教

- 授、西畑助教授、細川助手のもとに葵祭を見学
- 6月9日～21日 四回生教育実習
- 6月28日 第17回国語国文学会評議員会

人 事

新任 専任講師 安田 純生

昭和五十年国文学科講義題目

- | | |
|--------|-------|
| 国文学概論 | 久保 重 |
| 近世文学史 | 嘉部 嘉隆 |
| 国文学研究 | 原田 芳起 |
| 物語構成論 | 安田 章生 |
| 和歌史論 | 安田 章生 |
| 中世歌人論 | 西畑 実 |
| 謡曲 | 大橋 正叔 |
| 近世芸能論 | 木村三四吾 |
| 西鶴 | 安田 純生 |
| 近代短歌 | 山根 賢吉 |
| 樋口一葉 | 嘉部 嘉隆 |
| 夏目漱石 | 杉藤美代子 |
| 日本語音声学 | |
| 国文学講読 | |

万葉集	安田 純生	物くさ太郎	大橋 正叔	とりかへばや物語	浅井 朝子
宇津保物語	原田 芳起	明治の文学	嘉部 嘉隆	主観・三島由紀夫	朝野 裕子
栄華物語	山本 和子	音韻論	杉藤美代子	堤中納言物語研究	東 博千代
堤中納言物語	竹内美千代	演習 II		〇〇〇型アクセントの研究	東井 和美
よへの寝覚	久保 重	古代文学	安田 純生	夏目漱石研究―門について	新井 孝子
新勅撰集	西畑 実	中古・中世文学	原田 芳起	啄木―啄木の歩み	有富 弘美
軍記物語	嘉部 嘉隆	平安朝女流文学	久保 重	「吾輩は猫である」一考察	井野口和子
芭蕉	木村三四吾	和歌文学・謡曲	西畑 実	大阪一拍語ピッチと持続時間	井本久美子
浄瑠璃	横山 正	近世文学 I	大橋 正叔	伊勢物語研究―女性的愛	池尻 東詩
上田秋成	大橋 正叔	近世文学 II	大橋 正叔	宇治拾遺物語―怪異変化	石田裕紀子
近代の抒情詩	山根 賢吉	近代文学 I	嘉部 嘉隆	平家物語における俊寛像	石塚真理子
演習 I		近代文学 II	嘉部 嘉隆	平家物語―女性考察	稲垣 百合
源氏物語―桐壺	久保 重	国語学の諸問題	杉藤美代子	伊勢物語研究―恋愛の種々相岩橋	馬岡美由紀
源氏物語―帚木	山本 和子	国語学概論	杉藤美代子	イクセントの歴史的一考察	大塚 敏恵
源氏物語―空蟬	山本 和子	国語学史概説	原田 芳起	落窪物語小論	大東 月子
源氏物語―葵	安田 純生	国語法概論	西畑 実	蜻蛉日記研究	岡 尚子
源氏物語―須磨	安田 純生	国語表現論	杉藤美代子	西鶴の人間性について	岡本 佳子
源氏物語―絵合	竹内美千代	話ことば	山上ミチ子	仮名草子一性格―恨之介	岡本 光永
源氏物語―橋姫	原田 芳起	国語科教科教育法	杉藤美代子	平賀源内の研究	奥野 充子
源氏物語―東屋	久保 重	昭和四十九年度卒業論文題目		平家物語研究―宗教観念	加藤 敦子
源氏物語―浮舟	原田 芳起	宇津保物語―琴の調べ	青松 光枝	老妓抄―老妓の懂れたこと	梶 預始子
後撰集	西畑 実	永井荷風研究―墨東綺譚	赤坂恵美子	暗夜行路研究	片岡 道子
和泉式部集	安田 章生	谷崎潤一郎研究―己	浅井 和子	大江健三郎論	

- 湖東竜王町のアクセント 片岡 陽子
 山東京伝の研究 兼永知佳子
 更級日記研究―孝標女と物語川上 淑子
 伊勢物語 東下りについて 川崎 洋子
 今昔物語における女性たち 川地 雅子
 よはのねぎめ 川辺智佐子
 南総里見八犬伝の世界 河村 光代
 西鶴の研究 好色一代男 木村 敦子
 日本語母音のスペクトル 木邨 裕子
 小林多喜二研究 党生活者 貴志 弥生
 大阪市城東区における二拍語
 名詞のアクセントについて 岸本 美幸
 泉鏡花―高野聖への一考察 北野 桂永
 堀辰雄―日本的なるもの 北野美佐子
 平家物語における女性 北村 弘子
 御伽草子の笑い 北村 康子
 今昔物語集―盗賊と悪行 草開清孔子
 心中天網島における悲劇 草開ひとみ
 落窪物語研究 栗林志津恵
 西鶴研究―好色五人女 栗林 美恵
 横光利一研究―「寝園」 小林 優子
 近松作品研究 堀川波鼓 小紅由美子
 落窪物語研究 五井 依子
- 西鶴の一考察 日本永代蔵 越崎 敬子
 宇津保物語研究 米谷 香苗
 落窪物語研究 佐々木淑子
 自伝的日記文学における父親 と母親 佐竹 美貴
 暗夜行路 自我の限界 崎山 福子
 讃岐典侍日記研究 志賀美津子
 樋口一葉 たけくらべ論 清水真知子
 日本文学と庭園美 重野 光代
 大伴坂上郎女考 芝 訓子
 岡本かの子―墮天女の嘆き 芝本 桂子
 和泉式部研究 柴田 益美
 蓮月尼考 白波瀬満知子
 宇治拾遺物語の研究 角野 正美
 京極為子―玉葉集における 住田 真理
 有島武郎論「星座」 田口 睦子
 井原西鶴―「織留」私考 田中 詠子
 とりかへばや物語―顔蔭性 田畑知英子
 好色一代男について 高橋 節子
 中島敦研究―「李陵」中心に瀧井 和美
 近松の姦通物について 竹腰 和世
 林芙美子研究 谷口 恵子
 島崎藤村研究―春の一考察 谷口 充代
- 井原西鶴 塚本美砂子
 正徹研究 辻 美知子
 近松世話浄瑠璃研究 辻野美也子
 假名草子と浅井了意 坪井 啓子
 宇野浩二研究 土肥 旬子
 今昔物語集 男と女の姿 徳美 好子
 狭衣物語研究 豊岡 佐起
 芥川龍之介研究―河童一考察 豊田千穂子
 「文正草子」と『恨の介』 中尾 悟子
 島崎藤村研究「家」 中垣内隆子
 樋口一葉研究―十三夜 中田美栄子
 心中天の網島における一考察 中富 道子
 丹波方言におけるザ行音とダ 行音の混同 中野 節子
 上田秋成のひとつとなり 中村 貞子
 近松の世話浄瑠璃の研究 長井 輝子
 万葉集の研究 山部赤人 長竹 則子
 有島武郎「或る女」研究 西井 文子
 谷崎潤一郎小論 西川 克子
 西鶴 その女性観 西川真理子
 宇津保物語 西川 陽子
 坂口安吾研究 評論について 西口 純世
 夏目漱石研究―虞美人草 西田 博子

- 栄花物語における中の関白家西谷 和美
 夏目漱石「ころも」一考察 西村 知子
 健聴者と難聴者の音声比較 日下千恵子
 民話における一考察 林 裕子
 上代・中古における「うつくし」「うるはし」「かなし」について 林 保子
 好色五人女 暦屋物語 原田 玉美
 とはずがたり 後深草院二条伴 公江
 額田王 坂東由利子
 松本清張論 松山 晃子
 土佐日記 その世界 俵本千珠子
 清少納言研究 平岡 待子
 石川達三研究 平林依久子
 宇津保物語あて宮をめくって藤井 篤子
 宇津保物語 仲忠の愛と理想藤田美佐世
 徒然草研究 その文章 藤本 幸子
 今昔物語集 本朝世俗部 細谷 好美
 源氏物語―柏木について 前川 博美
 発話と聞こえの「ゆれ」 牧浦 和子
 晶子研究 三木公美子
 蜻蛉日記研究 水島 正恵
 篁物語一考 岡部 澄子

- 源氏物語の研究 宇治十帖 宮脇布佐子
 和泉式部研究 村崎 敦美
 大手拓次研究 森影 佳子
 コウタロウ私観 矢野 和美
 徒然草研究―その無常観 山際貴代恵
 島崎藤村研究―新生一考察 山中 洋子
 宮本百合子 山村圭英子
 落窪物語の作者として源順説 山本 恵子
 からの見解を中心にして成立年代及び主題を採る 山本 寛子
 和泉式部研究 山本 睦美
 樋口一葉研究 湯川はるみ
 田山花袋研究 湯北 雅子
 蜻蛉日記における一考察 吉桑佳寿子
 平家物語研究 建礼門院 吉本 晴美
 京都弁一拍語の研究 吉本 晴美
 栄華物語 渡辺 香

受贈図書

(昭和49年1月～49年12月)

- 愛知大学国文学14号
 国語国文学報26集 愛知教育大学
 跡見学園国語科紀要22号
 梅花女子大学文学部紀要10・11号
 国文学研究9号 梅光女学院短期大学
 別府大学国語国文学15・16号
 人文学論集7号 仏教大学図書館
 紀要文学科34号 中央大学
 日本文学研究13号 大東文化大学
 同志社国文学9号
 人文学部 同志社大学人文学会
 愛媛国文と教育5号 愛媛大学
 香椎潟19号 福岡女子大学
 文芸と思想38号 福岡女子大学
 藤女子大学国文学雑誌15・16号
 文献ジャーナル7号 富士短期大学
 義仲寺84・95号 義仲寺史蹟保存会
 国語国文学会誌17・18号 学習院大学
 国語国文学論集3号 学習院女子短期大学
 国語国文学誌3号 広島女学院大学
 国語国文学研究51・52号 北海道大学
 学園論集24号 北海学園大学
 国文学叢63・64・65号 広島大学
 古代中世国文学1号 広島平安文学研究会
 実践国文学6号 実践国文学会
 国文学研究資料館報1・2・3号

- 上智大学国文学論集7号
 語学文学研究5号 金沢大学
 日本文芸研究25卷4号 関西学院大学
 日本文芸学8・9号 日本文芸学会
 高知大国文5号 高知大学
 国文学50号 関西大学
 高知大学学術研究報告5号
 甲南大学紀要文学編13号
 甲南国文21号 甲南女子大学国文学会
 女子大国文71・74号 京都女子大学
 語文研究35・36・37号 九州大学国語国文学会
 金城国文57号 金城学院大学国文学会
 国語国文学研究9号 熊本大学
 国文学研究ノート3・4号 神戸大学
 学苑400・420号 昭和女子大学
 国学院雑誌74卷11・12号75卷1・11号
 国学院大学紀要12号
 駒沢国文11号 駒沢大学
 野州国文学12・13・14号 国学院大学栃木短大
 宮城学院女子大学研究論文集9・10号
 文芸研究30・31号 明治大学文学部
 武庫川国文6号 武庫川女子大学
 語文39号 日本大学
 国語国文学35号 名古屋大学
 国文目白13号 日本女子大学
 日本文体論研究20号 日本文体論協会
 文芸研究75・77号 日本文芸研究会
 ノートルダム清心女子大国文科紀要7号
 並木の里8・9号「並木の里」の会
 文学史研究15号 大阪市立大学
 人文研究25卷7分冊 大阪市立大学
 女子大文学25号 大阪女子大学
 語文32輯 大阪大学
 大妻国文5号 大妻女子大学国文学会
 大妻女子大学文学部紀要6号
 国文40号 お茶の水女子大学
 帯広大谷短期大学紀要11号
 大谷女子大国文4号
 立命館文学31・31号 立命館大学
 立教大学日本文学31・32号
 論究日本文学37号 立命館大学
 文芸論叢10卷 立正女子大学短期大学部
 滋賀大国文11号
 親和国文8号 親和女子大学
 文林8号 松蔭女子学院大学
 佐賀大国文1・2号
 静岡女子大学国文学研究7号
 白珠29卷1・12号 白珠社
 成城文芸68・71号 成城大学
 成城国文学論集7輯
 成蹊国文7・8号 成蹊大学文学部
 専修国文15号 専修大学
 成蹊大学文学部紀要9号
 国文白百合5号 白百合女子大学
 殖生野国文4号 四天王寺女子大学
 島大国文3号
 国文橋1号 京都橋女子大学国文学会
 国文鶴見9号 鶴見女子大学
 鶴見大紀要11号
 国文学論考10号 都留文科大
 青須我波良8・9号 帝塚山短期大学
 紀要11号 帝塚山短期大学
 山の辺の道18号 天理大学国文学研究室
 国文学漢学論叢19輯 東京教育大学
 東京女子大学日本文学40・41号
 都大論究12号 東京都立大学
 (以下一〇ページにつづく)

編集後記

原田芳起教授は本年古稀を迎えられ、六月には博士号を国学院大学より授与せられた。誠に喜ばしい限りである。教授御自身のお言葉では人生・学問研究の上での折り返し点ということであるが、研究室に机を共にする後学の者にとってはこの上ない激励のお言葉を受けたに等しい。常に若々しい教授の学問に対する情熱を糧としていた私達は、古稀を祝することに戸惑い、博士号授与に遅きの感を持つのが正直なところである。しかし、一筋の道を歩まれ一つの区切りをつけようとしたといわれる原田教授に私達では及はばい申し、学問の御成果にお喜びを申すのみである。そして、微意ながら学恩に報いるため「原田芳起博士古稀記念号」を『樟蔭国文学』第十三号に編み、教授に縁ある方々からも多くの論稿を頂くことにした。こうした華々しいことは好まれない教授のお人柄であるが、そのことにより『樟蔭国文学』の充実を期することができるなら私達の企画に快諾を与えられ自らも二編の論稿をよせられた。又、御寄稿を依頼申し上げた先生方からも教授の薫陶を得られた方々からも玉稿をありがたく投函いただいた。お礼申し上げます。

原田教授は本年の研究目標を宇津保物語の諸論稿の整理とまとめに絞られその抱負を柔しく語られる中であって、はからずも学長急逝の後、温厚篤実にして現実を避けて過せないお人柄ゆえ九月より学長代行の重責を受けられた。多忙の雑事の寸暇にも御研究の筆をはなされることなく、又、講義に安心を得ておられるが、私達は本学のために専心なさる教授の御健勝を思うのみである。

(大橋、嘉部)

樟蔭国文学 第十三号

昭和五十年十月五日印刷
昭和五十年十月十日発行

編集者 大阪樟蔭女子大学
国語国文学会
(代表者 原田芳起)

印刷所 大阪市天王寺区土町七丁目
明新社 大阪店

発行所 大阪府豊屋二五八
大阪樟蔭女子大学
国語国文学会